

## 会議結果のお知らせ

1 開催日時

令和2年1月30日（木） 午後3時00分から午後4時32分まで

2 開催場所

岩手県立宮古病院2階会議室

3 議題及び報告事項

(1) 宮古地域県立病院事業の運営状況について

(2) その他

会議資料等は、宮古病院内、県庁行政情報センター及び沿岸広域振興局行政情報サブセンターで閲覧できます。

4 問い合わせ先

岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第1地割11番地26

岩手県立宮古病院 事務局

電話 0193-62-4011

---

## 会 議 録

1 日 時

令和2年1月30日（木） 午後3時00分から午後4時32分まで

2 場 所

岩手県立宮古病院2階会議室

3 出席者（敬称略）

委員 山本 正徳（会長）

佐藤 信逸（副会長）

中居 健一

佐藤 雅夫

昆 亜紀夫  
森谷 俊樹  
阿部 敏博  
高橋 富士雄  
横田 初恵  
佐藤 祐加子  
川崎 賢一

千代川 千代吉  
鈴木 光子  
中島 セイ  
山口 久子  
小笠原 信子  
上屋敷 正明

#### 事務局

(医療局本庁)

医療局長	熊谷 泰樹	経営管理課総括課長	吉田 陽悦
職員課総括課長	一井 誠	経営管理課主任主査	佐藤 宏昭

(宮古病院)

院長	村上 晶彦	副院長	三浦 邦彦
副院長	白倉 義博	副院長	阿部 薫
参事兼事務局長	赤坂 高生	総看護師長	富山 香
薬剤科長	熊谷 央路	事務局次長	大浦 俊美
医事経営課長	内山 幸裕	総務課長	最上 美由紀

(山田病院)

事務局長	藤澤 正志	総看護師長	前田 郁子
------	-------	-------	-------

#### 4 会長あいさつ

委員の皆様には、大変お忙しい中、このように協議会にご出席いただきまして大変ありがとうございます。

また、村上院長をはじめ、宮古病院の先生方、山田病院職員の皆様方にも今日はこのようにご対応いただき、県の方からも熊谷医療局長をはじめ職員の方々にもご対応いただいております。本当に感謝申し上げます。

今、コロナウイルスでバタバタしているところかと思いますが、我々の地域では、県立病院なしでは、医療が確保できていないという状況の中で、しっかりと、宮古病院と山田病院が機能していくために協議会の中で検討しているというところがあります。今日は、両病院からいろいろと現在の状況等を伺いながら、我々も一緒に考えていきたいと思っておりますので、皆様よろしく願いいたします。

#### 5 病院長あいさつ

今日はお忙しい中、委員の先生方皆様にはおいでいただきましてありがとうございます。いつも宮古病院、山田病院を助けていただき本当に感謝申し上げます。

宮本院長が検査入院をしております、そのため欠席させていただきました。代わりに藤澤事務局長の方から報告がございます。それではどうぞよろしくお願いいたします。

## 6 医療局長あいさつ

昨年10月の台風第19号災害におきまして、犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた全ての皆様にお見舞いを申し上げます。

運営協議会委員の皆様方には日頃から県立病院の運営に対して様々なご支援ご協力をいただいております。この場をお借りしまして改めてお礼申し上げます。医療局でございますが、昭和25年11月1日に発足してございます。今のような形で岩手県全体で県立病院の運営を行うような形態になりまして69年目であります。本年11月に70年を迎えます。

「県下にあまねく良質な医療の均てんを」という創業の精神を受け継ぎながら、県立病院が県民に信頼され、良質な医療を持続的に提供できるよう、今後とも取り組んでまいりたいと考えております。

宮古病院におきましては、圏域の基幹病院といたしまして、その機能を担い、二次救急医療、がん医療、周産期医療等高度専門医療を提供しております。

また、山田病院におきましては、圏域の地域病院として、基幹病院である宮古病院と連携しながら入院医療を提供しております。両病院が連携しながら地域の医療、役割を果たしているところでございます。

医療局といたしましても医師不足の厳しい状況でございますが、限られた医療資源の中で、今後とも地域医療を守るために県立病院間のネットワークを活用した応援体制の強化、地域の医療機関、福祉・介護施設等との役割分担、連携を一層進めまして、努めてまいりたいと思っております。

本日の運営協議会で、委員の皆様から頂戴いたしますご提言、ご意見について、今後の運営に活かしてまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。本日はよろしくお願いいたします。

## 7 議事

### (1) 宮古地域県立病院事業の運営状況について【資料】

#### ① 宮古病院の取組状況 村上院長より説明(スライド使用)

「宮古病院の未来は」ということで、お話したいと思っております。私は今年で定年でございます、今年度で最後のご報告ということになります。どうも

ありがとうございました。お手元のプリントの方に 2025 年を見据えた今後の方向性について、ということでプリントしておりました。それは医療計画に載っている文章になります。基幹病院としてやることですが、医師確保、地域の災害拠点病院、地域医療支援病院、医療・介護・行政との連携を進めて地域包括ケアシステムの一翼を担うのが当院の使命だと思います。

宮古市の医療、介護施設を見ますと、一般病床では、宮古病院 276 床、岩泉済生会が 77 床、山田病院が 50 床、宮古第一病院が 148 床、精神病院として、三陸病院 235 床、山口病院 340 床、後藤先生のところが 19 床、伊東先生のところが 6 床、松井先生のところが今病床数が無くなりまして、あとこの地域の歯科医院、特別養護老人ホーム、保健施設等を調べて、この表のようになっております。

まず最初に岩手県の地域医療構想で、当院は載っていないんですけど、ショッキングな話題がありまして、これに載った病院については、ベット数を減らせということを言われております。

一方、昨日山本市長が行かれた、岩手県の市長会議がありまして、地域医療構想を進めており、厚労省が再編の議論を必要とする公的機関については、市長会の方で「各医療圏で事情が異なる。」ということで、地域の現状に合った地域医療構想にしてほしいという申し入れをすることに決めたということで、今後、病床数についても、市長会の方からご提言をいただくということになります。

人口なんです、宮古地域の 2015 年の高齢化率が 34%となっていますが、2025 年には 51%、30 年に 58%、それから人口の減少率については、20.5、46.2%とそのような数値が厚労省の方から上がってきています。それで宮古圏域における年齢別の人口の変化なんですけれども、2020 年までは高齢者の数は減らない、2040 年には 2 人に 1 人が 65 歳以上、3 人に 1 人が 75 歳以上となり高齢化率が高くなるということで、こういった医療のための病床数が必要になるのではないかと私は考えています。

国の方で示した病床数ですが、宮古病院は急性期を 237 床から 100 床減らして、回復期では 100 床足りないということですが、高齢化ということで回復期の病床数が足りないというのがこの地区の現実ではないかと思えます。それで 2025 年では、国の稼働病床ベースでは、472 床と出ておりまして、現在は 574 床となっており 102 床多いということになっております。これについては、この数字が独り歩きをしても困るということもあり、私たちとしては地域包括ケア病床をつくりまして、回復期の患者さんを 2 ヶ月受け入れるという形をとりましたので、山田、岩泉の町長さん方にこの地域からは病床を減らさないようお願いしたいと思い資料を作成しました。

もう1つの問題が、本県最下位の医師の数なんですが、実は最初に発表された11月の頃は新潟県に続き2番目の少数県で、岩手県の中での最下位が宮古市であり、86.8%と、以前の83%より若干上がっております。医師不足対策については岩手県で2023年までにあと359名の医師が増員できれば全国の下位3分の1から抜け出せるということになっております。宮古地域ではどうかというと、24名の医師が増えれば全国の下位3分の1から抜け出せるということになっております。

産科と小児科の医師数ですが、産科医は現在4名ですがあと1名増の5名、小児科は現在3名をもう1名増やせると目標医師数をクリアすることが出来る数字となっております。明日、地域医療シンポジウムがありまして、医師少数県の知事が集まりましてシンポジウムでアピールすることになっておりまして、私も参加する予定です。

医師不足の対策として、令和2年を第一期とし、令和6年第二期、15年を第三期として、それぞれ目標となる数字を見直しをしながら対策を検討していくということになっております。研修医にどういった病院が良いのかアンケートをとったところ、「専門医が取得できること」、「指導体制が充実していること」、「施設の雰囲気」、「症例数の経験が多い」が望まれる条件でした。当地区でも専門医制度に対応しまして、内科の専門認定施設となっております。三陸では唯一の施設となっております。その他に、外科とかも岩手医大と県立中央病院の関連施設になっておりまして、当院で研修しても専門医になれますよということを発信しております。当院の先生方にも頑張ってもらっています。岩手県では内科の認定施設は、岩手医大と県立中央病院と県立胆沢病院、当院の4つだけとなっております。当院は関連病院ということでこの中で症例報告、学会発表が大事になってきますので、内科学会で3題、内科系の学会で6題と、中部病院の次に頑張っているところです。

それからこれが医師数の状況ですが、かつて今の郵便局のところに病院があった時代は医師が50人ぐらいおりましたが、その後、震災の時に最低で22人となりまして、この時まではずっと黒字で、多分岩手県で1番ぐらい頑張っていた病院だったんですが震災の頃に医師が減少しまして医師の数が22人で負債額が1億円という状況になりましたが、震災後に全国から医師の応援をいただきまして、今は32人になりました。これが私に来てからの常勤医の数ですが、研修医が増えておりまして、平均年齢がどんどん若くなりまして今年は34歳となっております。それから医師の数なんですけれども常勤医はあまり変わってないですが、研修医の数と臨時医師（医局から派遣される半年交代の医師）ですけれども現在39名となっております。常勤医不

足を研修医獲得で補っている状況です。研修医ですけれど、ここ岩手県では、イーハトーヴ臨床研修病院群ということで、ここで研修をすれば、他の県立病院に行っても良いことになっています。来年度、宮古病院での研修を希望する6年生は2名となっておりますが、国家試験を合格すればということになります。

私が院長になってから何をやったかと言いますと、急患室に行って救急の患者さんの申し入れを聞いたり、内視鏡をしたり、朝の挨拶運動をしたり、管理会議の資料作りや診療科長会議を開きました。研修医の獲得に向けて三浦副院長や、石黒医療研修科長といろいろな会議に出席しましたし、地域医療支援病院を獲得しました。DMAT活動は3チーム養成しましたし、患者サポートカンファレンスという患者のクレームについて毎週幹部職員で対応しております。来年度はリニアック装置を更新することになっております。

何をしたかったかという職員に自信と満足感を持ってもらいたい、地域に宮古病院が必要とされているということ認めてもらいたいということで、これは朝のホールですけれど挨拶運動で「ごめんなさい。」と謝っているわけではありません。院長便りで、先月受けた「病院機能評価」や「出前講座」についてお知らせしております。さらに毎月、開業医の看護師さんたちを対象に地域公開講座を開催しています。出前講座では、循環器内科の前川先生に講義をしていただくと、参加者も多く大盛況であります。

地域診療支援病院については、東北・北海道の一番常勤医が少ない中で、医師会の先生方に非常に助けをいただきまして、登録医になっていただき、紹介・逆紹介率という数字をなんとかクリアすることが条件で承認されました。耳鼻科の先生と放射線治療科、常勤医じゃないですし、耳鼻科については週3回応援に来ていただいて外来していますし、放射線治療科、神経内科の木澤先生がお辞めになって不在になっていますが、中央病院から診療応援に来てもらっています。麻酔科の方は完全に中央病院から応援をいただいております。また、外来では常勤医がいなくて専門医にきていただいておりますけども、糖尿病、神経内科、呼吸器外科は、岩手医大の教授に来ていただいており、自分が手術した患者を診てもらっています。リウマチは専門の先生に来てもらっていますし、耳鼻科は週3回、眼科・皮膚科は週1回来てもらっていますし、腎臓内科についても中央病院から週1回応援に来てもらってなんとか助けをもらっています。

入院患者の延べ数ですが大体、8万人ぐらい、新入院患者数は5,500人程度、平均在院日数は13日前後、病床利用率は79%程度となっております。1日の平均収益が先ほどの地域医療支援病院の指定を取りますとこれくらい上がります。現在は46,000円ぐらいということで、常勤医の数も増えて、

そういった手技も増えております。外来患者については、11万人ぐらいで外来の単価については、今は抗がん剤治療が増えておりまして、診療単価が高くなっております。

紹介率は地域医療支援病院として今年は55%で、逆紹介率は81%となっております。地域がん診療連携拠点病院としては、年々大きな手術の件数が増えておりまして、今年は昨年度よりも手術の件数が増えています。

それから外来化学療法ですが、抗がん剤治療が増えておりまして、昨年と比べて増加しており、今年も10月の段階で200件を超えておりまして、400件を超える見込です。地域連携拠点病院にならないと、がん治療とかできませんので、なんとか維持しなければならないというのが宮古病院の使命だと思います。

また、放射線治療についても年間100例以上、拠点病院で5番目、中央、中部、胆沢、磐井の次に多く実施しています。医科歯科連携については、年々増えておりまして昨年は111件、それから助産についてですが分娩件数について、今年は松井先生のところでやらなくなったせいか、例年より40例ぐらい増えております。常勤医の先生も前は二人だったのが、今年度11月から3人に増えまして、分娩件数は少し増えております。

救急医療については、平成22年頃は60%の受け入れだったのが、最近では82%3,042件を当院が引き受けているところです。ドクターヘリについては昨年の利用が宮古管内で38件で、当院に来たのが12件、当院から転送搬送したのが、18件ございました。ヘリポートも活用させていただきまして、やはり盛岡まで15分で行けますので、救急患者にとっては良いことだと思います。

宮古市長さんが消防と共同して救急車に心電図伝送システムを整備しまして、現在は圏域の市町村さんにも協力いただきまして、11台全部に整備されました。当院の循環器内科の先生4名がiPadで心電図を確認して「心臓カテーテル検査」を必要とする場合はすぐ呼び出しをして治療までの時間を短縮出来るシステムで、住民の皆さんにも安心していただける活動となっております。救急の数も年々増えておりまして昨年は時間内で1588件となっており、来院方法についてはやはり救急車が多い様です。救急搬送で入院した人数ですが、高齢者で交通手段がない、家に帰れないという方が増えておりまして、救急室のカーテンをもう1カ所外しまして、整理しました。

年末年始の救急患者ですが、626名、救急車79台の搬送がありました。看護師の方ですが、PNSと言いまして、看護師が2人1組で業務に取り組むということで頑張っていまして離職率が減っております。ただし、今の10:1の看護体制ではかなり厳しい状況であります。

満足度調査ですが、これは外来と入院患者さんの満足度で、実はこの数字が県立病院の基幹病院では一番悪い方です。何で悪いかというと外来は38%で、予約優先、紹介状を持ってきてもらってということで、常勤医が少ない中で、各診療科で苦勞しながら患者に寄り添う診療をしておりますけれど、救急医療と入院医療に特化しないと医者数が少ないので地域医療を守れないのでは、ということが原因としてあるのではないかと思います。ただし、今年は昨年より満足度の数字が上がっておりまして、72%となっております。看護科のアンケートにつきましてもやはり忙しい病院については満足度が低い傾向にあります。仕事が多忙、新人教育する看護師がいないというのが当院の問題点でございます。

職員を大切に作る組織であるかというアンケートでは、看護師長さんたちに頑張ってもらって年々数値が良くなってきています。子育てしている看護師さんたちが集まって情報交換をするランチ会というのがあります。ワークライフバランスという取組を行い、カンゴザウルス賞を受賞しました。また、当院には三陸唯一の看護学院がありまして、保健所長にも講義に来ていただきましたし、75%以上の生徒が県内に就職しておりまして、今年については31名90%以上が県内に就職しておりまして、こういった看護職の教育もしております。看護学院については、当院医師、看護師、その他職員や保健所長にも講義いただき運営しているところです。

2017年から2018年と黒字を達成しています。地域包括ケア病棟会議を行い、どういった患者さんを包括ケア病棟に移すかということをお私と事務局長、医事経営課長等で週1回検討しています。地域災害拠点病院となっており、一昨年の北海道胆振東部地震では当院から佐々木先生、福士看護師他当院職員を派遣しまして、岩手では中央、中部、大船渡病院から4チームを派遣し、鶴川町で活動して帰りは宮古病院の救急車で帰ってまいりました。

19号台風被害では今年1月に達増知事が宮古市で訓示をしております、重茂地区といいますと当院の診療所もありまして、水道が使用できなくなりましたし、80~90代の20人以上の患者さんが薬を必要としていまして、当院の薬剤師さんといつも行っているんですが、台風被害で橋が落ちていたりしたので、遠回りをしながら訪問して薬を届けてきました。

天台宗の酒井雄哉さんの言葉ですが、1日一生「被災された方を応援するときは、義務感や付き合いからではなく、心のこもった行いを誠実に真心込めて行う」と、こういった信念で行うことが大事だなと思いました。

透析ですが、宮古地区は透析患者が多く昨年まで9床だったのですが、今は5階に広く15床を確保しまして、透析の患者さんも増えております。

あと結核ですが、一昨年の結核で宮古病院に入院した患者は4名でした。外国人の方90代の老人などで、現在も1名入院しております。

それからコロナウイルスですが、宮古病院は県の指定医療機関の一つです。県医療政策室の担当課長は「不安がある場合は保健所に相談」するように言っています。この9施設、県立宮古、久慈、大船渡、遠野、千厩、一戸、盛岡市立、北上済生会、総合水沢が指定施設となっております。当院では感染病床4床となっております。「マスク、手洗い、手指消毒」が基本ですし、リハビリの横が、感染症病床の入り口となっております。宮古地区広域行政組合感染症隔離病舎となっており、患者さんは3階から入ってもらって、中はどうなっているかという、配膳等も窓口から手渡しするような状態で、広い廊下の奥に1床、こちらに3床の病床があります。感染病棟は陰圧になっておりまして、ウイルスが外に漏れない様になっております。

外来はというと、これは新型インフルエンザの時に作ったんですが、ここにシャワーがありまして、別のところで診察することとしました。新型コロナの場合は3階から回って当院に入院させた方がよいのかなと思っております。

運営なんですけれど、地域包括ケア病棟の利用促進ということですが、結核病床については入院が少なかったので、基準病床10床あったのですが、5床にして7階の50床を55床に一般病床を増やして運用しています。

それから山田病院、岩泉済生会へ診療応援をしております。医師以外に薬剤師も応援しております。今問題になっているのは医師の超過勤務ですけど、A地区で960時間、B地区で1,860時間となっておりますが、当院はB地区で、連続勤務28時間以内、インターバル7時間以上なのですが、当院では、少ない人数でなんとかやっていますが、義務となってしまうと救急医療は崩壊します。10月の80時間以上の超過勤務は常勤医36名中3名でした。全国の病院の8割について、宿日直の維持が困難であると回答しております。

あと今年は、三陸防災復興プロジェクトということで、病院をオープンにして手術の体験とか、内視鏡の見学とか研修医の講演とかしまして65名の参加がありました。また、9月7・8日には浄土ヶ浜パークホテルで県立病院医学会がありまして、京都大学の稲垣前病院長に来ていただいて講演していただきました。

経常損益ですが、29、30年と連続黒字となりまして、今年も12月の段階では若干の黒字となっておりまして、数字に対して職員の意識も変化してきて、みんなで頑張ろうということでこの数字になっております。

また今年には医療局から県営医療貢献賞を受賞しました。今年も宮古ハーフマラソンに参加しまして、当院は若い先生が多いので8名参加いたしました。全員完走しました。継続することが大事かなと思います。

「良い花はあとで咲く」ということばが好きで、未来の職員のために、現在の職員が頑張っているということを報告しました。以上でございます。ありがとうございました。

#### 山本議長より発言

質疑応答につきましては山田病院の状況を報告したあとに取りたいと思いますので、次は山田病院の藤澤事務局長さんよろしく申し上げます。

#### ② 県立山田病院の取組み状況 藤澤事務局長より説明

本日はお時間をいただきまして、山田病院の状況についてお話いたします。山田病院の基本理念でございますが、それから基本方針ということで、「患者さんとの信頼関係を築くこと」といたしまして、全職員が日々継続して努力しているところでございます。病院の特色としましては、現在の山田町の公共防災エリアで、入院診療を再開しましてから、3年と5ヶ月が経ちました。限られた医療スタッフ、医療資源でございますので、地域内外の医療機関と繋がりを持ちながら宮古病院と連携を強化しながら、慢性期と回復期の患者さんを中心に診療を行っております。

次に病院の運営でございますが、常勤医につきましては、昨年度と同様に内科医3名体制でございます。平均年齢については、高齢化が進んでいるところです。小児科、外科、整形外科、眼科につきましては、宮古病院、中央病院、岩手医大などから診療応援をいただいて診療しています。時間外、休日の救急診療については引き続き宮古病院にお願いしている状況です。町民の健康づくりといたしまして、山田町と協力しまして、出前健康講座や糖尿病の重症化・合併症予防教室などを定期的開催いたしております。

次に医師等の確保でございます。県の医師支援推進室と連携を取りまして常勤医の確保はなかなか難しいところでございますが、今年度は新たに外科の非常勤の先生の応援をいただいて、今まで毎週木曜日だけだったんですけれど、月曜から木曜日まで外来診察日が増えております。それから当直応援の関係では岩手医大から新たな先生をお願いできまして、常勤医の当直の負担が少し軽減されております。

山田病院の職員数は82名ということで、その内訳については表のとおり

でございますが、昨年度とほぼ同じでございます。医療スタッフの推移にしましても大きな変化はございません。医師の日当直体制でございますが、現状としましては、常勤医が火曜日と金曜日を中心に行っておりまして、その他は応援の先生方をお願いしております。

先ほど宮古病院の村上院長からも話がありましたが、山田病院でもオープンホスピタル「山田病院祭り」を開催いたしました。三陸防災復興プロジェクトの関連事業ということですが、目的としましては、復興のご支援に感謝しつつ、地域の方々により身近に感じていただくことと、地元の医療に関心のある小、中、高生に医療の現場を体験してもらって、医療の担い手となることを期待しての内容にもなっております。115名の参加をいただきました。詳しい内容につきましては、病院の広報誌などに写真入りで掲載しておりますので、山田町の方はご覧になった方もいると思います。来年度につきましても何らかのイベントを続けてまいりたいと思いますのでよろしくご協力をお願いいたします。

最後に山田病院の課題でございますが、引き続きまして常勤医師の確保は最重要課題でございます。これまでいろいろな取組をしてきたわけですが、それに加えまして新たな取り組みとして医師の求人雑誌に病院の紹介記事を掲載してもらうこととしまして、全国から医師の紹介をいただくなどいろいろな取組を進めてまいります。地域包括ケアシステムの構築につきましては、出来るところで山田町や各施設と連携して取り組んでおりますけれど、特に入退院支援の強化として院内の医療チームで対応して進めているところです。在宅療養支援病院の再届けなり、地域包括ケア病床の導入につきましては、常勤医の確保が絶対条件であり、現状では出来ていませんが、その辺を目指しているところです。収支改善につきましては、広報活動をいろいろ今年度やってきておりまして、禁煙外来、睡眠時無呼吸閉鎖入院、メディカルショートステイ入院などの広報活動を進めております。チラシを作成しまして院内に配布する他に町の検診の会場で配るとともに、広報誌やホームページに掲載するなどしてお知らせし、地域住民の生活習慣病への対応などに力を入れているところでございます。

ここに記載した他にもいろいろな課題がございますが、出来るところで改善を進めながらより信頼される病院になるようスタッフ一同努めてまいりますので、これまで同様山田病院へのご支援をよろしくお願いいたします。

③ 宮古医療圏の医療資源・患者の状況・経営収支について、宮古病院の赤坂事務局長より説明

6 ページの医療資源等の状況ですが、病床数の状況について圏域としましては、一般 370 床、結核 10 床、感染 4 床の計 384 床となっております。それから包括ケア病床は、一般の 370 床に含まれておりまして、36 床あります。(2) は医師数でございますが、ご覧のとおりでありまして、宮古病院が 40 人、山田病院が 3 人となっております。(3) は部門別となっておりますが、時間制職員等も正規職員に換算した数となっておりますが、医師については 54.3 人、看護師については、227.41 人となっておりますが、その他にも、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査検査技師等々医療関係の資格を持った方、コメディカルと呼んでおりますが、そこを合算しますと 95 人がおりますが、その他に事務ですとかを合算しますと約 500 人が勤務しているということになります。

7 ページの患者数の状況になりますが、令和元年 11 月末現在の 1 日平均の患者数を表示してございます。宮古病院では 216 人、山田病院では 21 人、圏域で 237 人の方が入院しているという状況です。(2) の入院患者の推移につきましては、圏域内ではほぼ横ばいという状況ですが、県立病院全体をみますと 3,470 人から 3,235 人と減少傾向になっております。そのとなりが新入院患者数になっておりますが、圏域では 16.2 ぐらいで横ばいとなっておりますが、県立病院全体ではやはり減少傾向となっております。病床利用率については、病床数も変わってしまうので一概に言えませんが、74%となっており、県全体とほぼ同じとなっております。平均在院日数ですが、宮古病院が 13.2 日、山田病院が 17.2 日となっております。

8 ページの外来患者数ですが、宮古病院が 452 人、山田病院が 86 名となっております。圏域全体で 538 人の患者さんが受診しているという状況です。推移をみますと圏域内では、ほぼ同数からやや減少傾向にありますが、県全体では減少傾向にあります。新外来患者数、救急患者数についても若干減少傾向にあります。

9 ページです。救急患者についての搬送状況になりますが、宮古地区の消防本部の方からデータをいただいております。30 年度は交通事故の患者が増加しています。救急車の搬送件数については、平成 22 年と比較すると明らかに増加していることが分かります。

10 ページの表になりますが、転院搬送について平成元年の 11 月までは表のとおりであります。ドクターヘリについては、4 回、防災ヘリ 1 回となっております。また、市町村別の病院利用状況ですが、宮古病院は約 7 割の

方が宮古市の方で、2割弱が山田町の方となっておりますが、山田病院では9割の方が山田町の方となっております。

最後に収支の状況ですが、12ページをご覧くださいますと、昨年30年度の収支になりますが、宮古病院では3,300万円ほどの黒字、山田病院では4億6,000万円ほどの赤字、圏域としますと4億2,600万円ほどの赤字の決算ということになります。

11ページに戻っていただいて、今年度11月までの収支の状況ですが、宮古病院では、1億3,200万円ほどの赤字となっておりますが、前年同期を比較しますと3,600万円の改善となっておりますし、山田病院では、2億100万円の赤字となっておりますが、前年より3億8,400万円の改善となっております。

## 質疑応答

(山本正徳 議長)

ありがとうございました。それでは今まで説明いただいた①、②、③について、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(佐藤信逸 委員)

常日頃は、宮本院長はじめ、宮古、下閉伊の医療の根幹を担っていただいていますこと感謝申し上げます。また、先生方、医療スタッフの方々には昼夜を分かたず市民、町民のためにご尽力いただいていることに感謝申し上げます。また、先ほど村上院長がおっしゃったように山田病院に応援をいただいているということで、今後とも是非お願い申し上げたい。先ほどの説明の中で常勤医師の不足を言われていましたけど、看護師という部分については、宮古に高等看護学院があるわけですが、その就職状況についてはどのようになっているのでしょうか。また、山田病院の収支について改善されているとのことですが、その要因と今後の見通しについて、その2つについて教えていただきたい。

(一井職員課総括課長)

看護師の確保の状況ということでよろしいでしょうか。県立病院はご存じのとおり、県立病院全体で看護師の採用試験を実施しております。一時期、採用募集した数に対して応募者が少なく苦勞した時期がありましたが、今年度については、募集数を全体では超える応募者、内定者を確保しているという状況でございます。あと、地域によって勤務の希望者がおられますので、そこは全体を調整しながら、採

用する職員以外にも、配置の調整をしながら山田病院、宮古病院を含めて配置しているところでもあります。先ほどお話のありました宮古高等看護学院の学生については我々も地元に戻っていただきたいと考えているところで、各看護学院に対して就職説明会などを開催して、県内に残っていただき県立病院を希望していただきたいと考えておりますし、特にも宮古高等看護学院の学生については地元で働きたいと言う希望もございまして、スキルアップも含めて県立病院全体で養成をしながら確保しているという状況でございます。

（藤澤正志事務局長）

山田病院の収支改善の要因ということですが、11ページの山田病院の収支の状況をご覧くださいければと思います。費用の方に3億9,200万円計上しておりますが、これは被災した山田病院を処理した費用でございます。それを除いた収支で比較しますと昨年度より11月末現在で800万円ほど悪化しているというのが現状でございます。今後の見通しとしましては、12月、1月と入院患者さんが増えております。いろんな広報活動といたしますか、メディカルショートステイ入院でありますとか、業界ではレスパイト入院と呼んでいますけれど、そういった取組が少しずつ患者数に結びついておりますので12月、1月では少し改善しております。

（吉田陽悦経営管理課総括課長）

山田病院の収支の関係でいいますと、12ページに29年度、30年度の比較した数字が載っておりますけれど、山田病院の場合は入院も外来もほぼ変わらない状況でありまして、今年度につきましても800万円程度悪化ということでしたが、収支につきましては毎年大体1億円程度の赤字となっておりますが、県立病院は全体の20病院で経営をしております、昨年度、県立病院全体の決算でいいますと約6億円の黒字ということになっておりまして、純損益では赤字となりますが、経常損益では黒字となっております。山田病院についても黒字となっていたところではあります、構造的に難しい状況でありまして、今の規模で医療局全体で経営上はうまくいっている状況でございます。

（佐藤信逸 委員）

いずれ、先生方が少ない中でいろいろやりくりをして頑張っているということで、基幹である宮古病院と山田病院との連携をしっかりとっていただき今後ともよろしくをお願いいたします。

（阿部敏博 委員）

12 ページですが、平成 26 年度から 30 年度までの累積損益で約 10 億増えておりますけれど、現在 42 億ということですが、今後もっと増えていくということでしょうか。

（吉田陽悦経営管理課総括課長）

累積の関係ですが、黒字にならないと増えていくことにはなりますが、今の宮古圏域の状況から言いますと赤字の傾向が続くのかなと思いますが、先ほども言いましたとおり宮古圏域のみならず、県で一つの経営をやっているわけで、増えなければいいのはそのとおりですが、構造上、やむを得ないかなという状況であります。

（佐藤祐加子 委員）

資料の 10 ページですけれど、宮古病院ですが、私たちが入院したり、外来に来たときに看護師さんたちが忙しそうにしていますが、健康状態は大丈夫なのかなと考えてしまいますが、看護師さんたちのアンケートを見ますと「満足度」が 3.19 から 3.31 にアップしておりますが、県の平均が 3.55 となっていて、この数字が「いいのか」、「悪いのか」病院ではどの様に受け止めているのか気になりました。

（村上晶彦宮古病院長）

この数字ですけれど、中央病院などの忙しい病院では、低い傾向がありまして、一番いいのが大槌病院で、去年は大東病院が一番良かった。看護師の数がある程度いて、仕事量も宮古病院に比べて少ないところでは満足度が高い傾向にあります。ですけど、当院では、みんな頑張っていたら、このような数値となっておりますが、昨年度より若干ですが満足度が上がっていますよということで、あくまでも病院の中だけの数値です。

（熊谷泰樹医療局長）

県全体、数値としてこれで良いとは決して思っておりません。やはり、満足度を高めてやる気を出していただいて、患者さんへのサービスにつなげていく、それが、良質な医療を提供する我々の仕事であります。ですので、職員を大事にして満足度を上げていくことが大事でございます。毎年度、県立病院を離職される方がいらっしゃるんですけど、そういう方に出来るだけ残っていただき、意欲を持って仕事に取り組み、研修をし、資格を取ってより良い医療を提供出来るようにということで、少しずつ満足度を上げるように取り組んでいく考えであります。

（佐藤祐加子 委員）

この数字に満足しているわけではないと言うお話を聞いて安心しました。少しず

つ上がっているということに希望を持ちたいと思います。ありがとうございました。

（佐藤雅夫 委員）

医師数がなかなか増えないということなんですが、村上院長も話していましたが、研修医がなかなか集まらないということがありまして、県全体でイーハトーヴの連携をしているのは分かりますが、各病院に専門医がいないのではないかと。今度、村上院長が定年でお辞めになるということで、村上院長が色々と資格を持っていて、その院長がいなくなることが心配であります。現在病院に勤務されている医師についても頑張って「専門医」なり「指導医」なりを取っていただいて、研修医が外から見た時に魅力のある研修先の病院になるような方策を医療局にやっていただきたい。もちろん、宮古地域だけじゃないんですが、よろしくお願いします。

（熊谷泰樹医療局長）

やはり、若いお医者さんに来ていただく環境づくり、これは一番大事なんだと思っております。「指導医」の関係ですが、なかなかそういった年齢の方が大学の方でも不足しておりまして、そういった方を県立病院で勤務していただくのは難しい状況であります。県立病院内で「指導医」になるという意欲のある先生方に資格取得の支援、資格継続のための経費の支援、研修医や専門医の指導に当たった場合の給与上の手当を来年から導入すべく、そういった事で指導医の養成を県立病院の中でやっていく事を考えております。それをやることによって、例えば医局の先生方に県立病院の予算で、資格が取れますよということでさらに医師を派遣してもらえる呼び水になればと思っております。そういったところに力を入れております。初期研修医の話とは離れますが、今の県立病院全体の医師確保の一番は奨学金養成医師の義務履行による配置で、徐々に、今1年間に50名ほど県立病院に配置になっておりまして、そういった取組を今後さらに進めていくことで医師の充足を高めていきたい。29年度の奨学金養成医師については、基幹病院に勤務したら次は地域病院に勤務するあるいは地域病院での勤務を義務付けるとか、沿岸での勤務につきましても新たに義務に加えるとかそういう取組を奨学金養成医師の制度の中で、何とか地域の病院に医師を配置できるように工夫しているところでありまして、徐々に奨学金養成医師の配置を考えているところであります。

（佐藤雅夫 委員）

他県の状況を耳にすることがあるのですが、地域枠で入学した医師が研修で東京とかの大きな病院に行ってしまうというのを聞くのですが、県としてそういうことの無いようにお願いしたいのですが。

(村上晶彦宮古病院長)

私の代わりに総合内科については大久保先生が資格を取りましたので、内科認定施設についてはそのまま継続できます。各学会の方でいろいろな認定施設というのが緩くなって関連施設というのになりまして、非常勤でも認めるという動きがございまして、まだ認定医制度の方から正式な通知は来ていませんが、何とか私ももう少し関わって宮古地域を盛り上げていきたいと考えております。

(熊谷泰樹医療局長)

他県に行くという部分ですけれど、医療局の奨学金養成医師の場合、6年の義務履行ということで、6年間を県内の県立病院ないし、市町村立病院で勤務いただければ、奨学金の返還を免除しますよという制度であります。義務年限の倍の12年間のうち6年間を義務履行していただければいいですよということですが、残りの6年間をどうするかというと、専門医制度とかありまして若い学生さんは大学に残って勉強するとか、大学院に行くとか、お話にありましたとおり、都会の大病院に行かれるとか、そういった方がいるのは事実です。いずれ義務履行ということで、私どもの職員で定期的に面談をしまして、将来の義務履行について個別に話し合いながら状況を把握しておりますので奨学金を返還していなくなるということが無いように日々努めているところでございます。

(佐藤信逸 委員)

今、熊谷医療局長から色々と説明があり、努力をしているとのことでしたが、是非、宮古地区はお医者さんが足りないの、地域情勢を見ながらお医者さんの配置をお願いいたします。

(山本正徳 議長)

医師が足りないのが全ての根源なので、医療局もそれはご存じのことと思います。先ほど吉田課長さんが言ったことで、全体で黒字になっていけばいいということですが、山田病院についても医師が増えればそれなりに収益が増えるわけです。それが出来ていないのが問題であって、岩手県全体で問題なければいいという考えは違うのではないかと思います。先ほど山田町長さんが言ったように、宮古地域には医師が足りないということが絶対的な原因なんです。当然ながらデータの的に岩手県も少ないですが、その中でも村上先生はじめ沢山の方が努力して80いくつから、113まで上がったのですが、それでも全然足りないのが現実なので、盛岡の半分とか1/3ですので、そういった問題を県は真摯に受け止めるべきで、そうしないと医療崩壊してしまいます。このままだと人口が都会の方に行ってしまう、地域に残りたくても医療機関がしっかりしてないと、そこで暮らすことはなかなか難しいの

です。地域創生と言いながら逆行するわけですから県の方ももう少しスピードを上げて医師の確保をしていかなければならないと思いますので、是非宮古地域に医師の配分を大きくして、その状況を県内が等しくなるように持って行ってほしい。割合がこうだから奨学生が出てくるのを待ってしようということでは、とても追いつかないことですので、是非その辺を考えて、来年は決まっているのでしょうから再来年にならぬ宮古に配分するように対応をお願いします。

(熊谷泰樹医療局長)

地域の医療体制を守っていくのは県立病院、医療局の使命だと思ってますし。周産期医療等々、採算の面から民間の医療機関で提供が困難な部分は、県立病院が担うというのが役割だと思っております。そうした意味で私ども仕事をしておりますので、今、頂戴しました意見を十分踏まえまして、医師の確保、なかなか難しいところですがしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

(山本正徳 議長)

その他、ご意見ありますでしょうか。無いようであれば、これで議事を終了させていただきたいと思います。今、様々なご意見をいただきましたので、医療局におかれましては、それから宮古病院、山田病院におかれましては、十分に参考にしていただいて、医療確保に努めていただきたいということをお願いして議長の席を退席いたします。

## 8 運営協議会委員名簿（敬省略）

区分	現職	氏名
市町村	宮古市長	山本 正徳
市町村	山田町長	佐藤 信逸
市町村	岩泉町長	中居 健一
市町村	田野畑村長	石原 弘
学識経験者	岩手県議会議員	伊藤 勢至
学識経験者	岩手県議会議員	佐々木 宣和
学識経験者	岩手県議会議員	城内 愛彦
医療関係団体	宮古医師会長	佐藤 雅夫
医療関係団体	宮古歯科医師会長	昆 亜紀夫
医療関係団体	宮古薬剤師会長	千代川 千代吉
関係行政機関	岩手県宮古保健所長	森谷 俊樹
婦人団体	宮古市地域婦人団体協議会長	鈴木 光子

社会福祉関係団体	山田町民生児童委員協議会長	阿部 敏博
その他	宮古市保健推進委員	中島 セイ
社会福祉関係団体	山田町社会福祉協議会事務局長	高橋 富士雄
その他	宮古市食生活改善推進員 協議会副会長	山口 久子
婦人団体	宮古市交通安全母の会連合会長	横田 初恵
その他	宮古漁業協同組合女性部副部長	小笠原 信子
その他	山田町商工会青年部長	松本 龍太
その他	新岩手農業協同組合宮古営農経済センター 青年クラブ事務局長	上坂 喜和
その他	山田町立図書館おはなし広場代表	佐藤 祐加子
その他	宮古市国民健康保険運営協議会長	上屋敷 正明
その他	宮古市子ども会育成会連合会長	刈屋 裕之
その他	宮古市新里地域協議会委員	川崎 賢一
その他	宮古市いきいきシルバーライフ 推進協議会長	豊島 秀浩